

“チーム毒”が力をあわせて、もっとドクドクドキドキさせます。

オフィシャル
サポーター



伊沢拓司 (クイズプレイヤー)

開成中学校・高等学校、東京大学経済学部卒業。中学時代よりクイズ研究部に所属し、高校時代には全国高等学校クイズ選手権史上初の個人2連覇を達成。2016年に「楽しいから始まる学び」をコンセプトに立ち上げたWebメディア「QuizKnock」で編集長を務め、同YouTubeチャンネルの登録者数は190万人を超える。TV出演や講演会などクイズプレイヤーとして幅広く活動中。

メッセージ:「毒」というものは、もちろん自分から摂取したくないものではないにせよ、どこか悪戯的な、危ないのに惹かれてしまう魔力がありますよね。今回はそんな毒のことを、楽しく、そして正しく知ることができる展覧会です。毒を通して化学や生物の知識も深まるはず。ぜひ、その好奇心で学びへの扉を開いてください。ちなみに、今回はQuizKnockお手製の刺激的なクイズもあります。毒をくらわば皿までの精神で、こちらもお楽しみください!

音声
ガイド




ナビゲーター
中村悠一 (声優)

香川県出身。主な出演作は「僕のヒーローアカデミア」ホークス、「呪術廻戦」五条悟、「おそ松さん」松野カラ松、吹替「モービウス」マイケル・モービウス、「トップガン マーヴェリック」ハンガンマンなど。YouTubeチャンネル「わしゃがなTV」にも出演中。

貸出料金(税込) ※お一人様一台
一般・大学生 600円 高校生以下 550円
展覧会会場入口にて、専用ガイド機をレンタルできます。

アプリ配信版「聴く美術」(iOS/Android)
販売価格(税込) 650円
※配信期間中は、いつでもどこでもなんでも視聴可能。
※配信期間:展覧会開催期間中を予定

アプリ「聴く美術」
ダウンロードはこちら



クイズ
コラボ

QuizKnock への挑戦状



クイズ王・伊沢拓司率いる東大発の知識集団QuizKnock【クイズノック】から出題される「毒」クイズに挑戦しながら展覧会を楽しもう!

キャラクター
コラボ



「秘密結社 鷹の爪」でおなじみの「鷹の爪団」が展覧会に登場!

「毒」を世界征服に利用しようとする「鷹の爪団」のメンバーが、会場内のあちこちに登場。来場者の皆さんと一緒に「毒」について学びます。

©DLE

タイアップ
ソング



『UP to ME』

BiSH: アイナ・ジ・エンド、セントチヒロ・チッチ、モモコグミカンパニー、ハシヤスメ・アツコ、リンリン、アユニ・D からなる“楽器を持たないロックバンド”

アイナ・ジ・エンド メッセージ: 毒というのは少し怖いけれどだからこそ気になってしまったり、知りたくなったり、ドキドキしたりします。知れば知るほど、面白い存在です。“UP to ME”が特別展「毒」のタイアップソングになったと何ったとき、“UP to ME”は、一見カッコいいサウンドですが、歌詞を読み解けば、等身大でもがく姿が描かれていたりという、知っていくと深く好きになる要素が“毒”と似ているのかな? と思いました。今回の展示では、様々な毒の可能性、見方を紹介するというので、とても楽しみです。BiSHは楽曲で色を添えたいと思っています。

監修者

国立科学博物館の様々な分野の研究者9名が監修
細矢 剛(植物研究部長)、中江 雅典(動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究主幹)、吉川 夏彦(動物研究部 脊椎動物研究グループ 研究員)、井手 竜也(動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ 研究員)、田中 伸幸(植物研究部 陸上植物研究グループ 長)、保坂 健太郎(植物研究部 菌類・藻類研究グループ 研究主幹)、堤 之恭(地学研究部 鉱物科学研究グループ 研究主幹)、坂上 和弘(人類研究部 人類史研究グループ 長)、林 峻(理工学研究部 理化学グループ 研究員)

会場限定
オリジナルグッズも
ゾクゾク登場!

オリジナル
グッズ

入場料(税込)
一般・大学生:2,000円 小・中・高校生:600円

新型コロナウイルス感染防止のため、本展では各種対策を行うとともに、時間帯ごとに定員を設けております。そのため、ご入場されるお客様は公式サイトより日時指定予約が必要です。当日、博物館で販売する当日券での入場枠も設けておりますが、ご来場時にお待ちいただく場合や、入場枠が完売した際はご入場できません。

※未就学児は無料。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。※本展を観覧された方は、同日に限り常設展(地球館・日本館)もご覧いただけますが、常設展示の開館時間内に限ります。また、日時指定日の指定時刻の前に常設展示を観覧することはできません。※チケットのキャンセル・券種変更・払い戻し・再発行はいたしません。再入場はできません。※会場内の混雑等により、ご入場をお待ちいただく場合がございます。※土、日曜日、祝日、および会期末はご予約いただけない可能性が高くなりますので、早めのご予約・ご購入をお勧めいたします。※入場時に検温と消毒を実施しています。※入場にはマスクの着用が必要です。

展覧会公式サイト <https://www.dokuten.jp>

Twitter @doku_ten Instagram doku_ten

お問合せ:050-5541-8600(ハローダイヤル)、03-5814-9898(FAX)



公式サイト

オトリカブト= 写真提供: 門田裕一、コアラ= ©Janelle Luggie/Shutterstock.com、コモドオオカゲ= ©Cezary Stanislawski/Shutterstock.com、フリッツ・ハーバーの肖像= ©Science Photo Library amanaimages、ハブ(イラスト)= 画像提供: アップアート、「秘密結社 鷹の爪」イラスト= ©DLE ※「オオマルモンダコ」は映像で紹介。※画像はイメージです。※生体展示はございません。

アクセス

国立科学博物館(東京・上野公園)
National Museum of Nature and Science, Tokyo(Ueno Park, Tokyo)
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

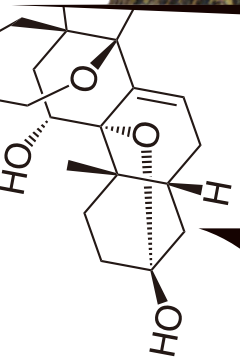
- JR「上野」駅(公園口)から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅(7番出口)から徒歩10分
- 京成線「京成上野」駅(正面口)から徒歩10分
- ※敷地内に駐車場および駐輪場はございません



Special Exhibition

POISON

特別展



2022年 11月1日(火) ~ 2023年 2月19日(日)

国立科学博物館(東京・上野公園)

National Museum of Nature and Science, Tokyo(Ueno Park, Tokyo)

開館時間:9時~17時(入場は16時30分まで)
休館日:月曜日、12月28日(水)~1月1日(日・祝)、1月10日(火)※ただし2月(月・休)、9日(月・祝)、2月13日(月)は開館
※会期等は変更になる場合がございます。※入場方法等の詳細は公式サイトをご確認ください。

主催:国立科学博物館、読売新聞社、フジテレビジョン
協賛:DNP大日本印刷
協力:海洋研究開発機構、国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、水産無脊椎動物研究所、第一三共、大日本除虫菊、東京都薬用植物園、東京農工大学、東京薬科大学、日本蛇族学術研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、ブリヂストン、星薬科大学、北海道大学植物園・博物館、ポーラ・オルビスホールディングス、ポーラ文化研究所、舞鶴引揚記念館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、Meiji Seika ファルマ

お問合せ:050-5541-8600(ハローダイヤル)、03-5814-9898(FAX)

国立科学博物館 読売新聞社 フジテレビジョン

コノセカイハ、ドクダラケ。



画像はイメージです

「毒はコワイ・・・」でも、だからこそ興味をそそる！実はこの世界は毒だらけ。

もちろん我々の近くにも・・・。

自然界、そして人間の社会には様々な「毒」が存在します。「毒」とそれに関わる私たち生物との関係を知ることは、自然界の神秘と驚きに満ちた一面を知ると共に、現代社会を生きる私たちのよりよい生活への大きな助けとなるはず。さあ、毒を知る旅にでかけよう。
(特別展「毒」監修統括：細矢 剛)



第1章

毒の世界へようこそ

私たちの身近な生活の中や、自然界には様々な毒が存在します。本章では毒とは何か、その概念から始まり毒が人間を含む生物にどのように作用するのかについて解説します。



第2章

毒の博物館

私たちのまわりにある様々な毒と、毒をもった生物を紹介します。生物の毒(動物・植物・菌類)の目的の多くは明確です。狩り(捕食)のために使用する毒、自分を守るために存在する毒、様々な有毒生物の毒の働きなどを、剥製などの標本を使って説明します。また、鉱物など無生物に含まれる自然界の毒や、人間が作り出した毒にも迫ります。

圧巻の拡大模型

毒をもつ生物たちを巨大模型で間近にご覧いただけます！ハブは約30倍、オオスズメバチは約40倍、イラガは約100倍、セイヨウイラクサは約70倍！(実物比)



トリカブト

日本には約30種のトリカブト属が分布。誤食すると頭痛などの症状が出て死に至ることもある。特に根茎に有毒成分が濃縮されている。



新たなる脅威

クジラの体内から見つかったマイクロプラスチック。

毒と進化

毒の存在は、生物の進化の要因ともなってきました。毒のある生物への擬態や、毒に耐える性質の獲得、毒を利用した種子の散布など、毒が招いた多様性と進化の例を紹介し、毒と生物の進化の関係を考えます。

コアラVSユーカリ?!

コアラは、食物とするユーカリの葉の毒性を味や匂いで敏感に感じ取り、毒性の少ない葉を選別する。



キオビヤドクガエル

警告色で自身が有毒動物であることを天敵にアピールし、無用な争いを避ける。

毒とはうまかつきあおう

現在、私たち人間の活動が新たな毒を生み出しています。未来に向け、私たちが地球規模で今考えなくてはならないこと、向き合っていくべきこととは何でしょうか。



終章

毒と人間

狩猟や戦、処刑や暗殺、また毒を研究することにより薬を生み出すなど、私たち人間はこれまで様々な形で毒と付き合い、操ってきました。ここでは人間がどのように毒を利用してきたのか、その歴史をふり返ります。また、科学の進歩による毒の解明、その利用などの研究も紹介します。



フリッツ・ハーバー(ドイツの化学者)

空気中の窒素からアンモニアを合成する方法の開発に成功し、1918年にノーベル賞受賞。第一次世界大戦時には毒ガスの開発に関わった。

毒虫と呼ばれる生物たち



ウシアブ

ネコミ



シエルツェマダニ



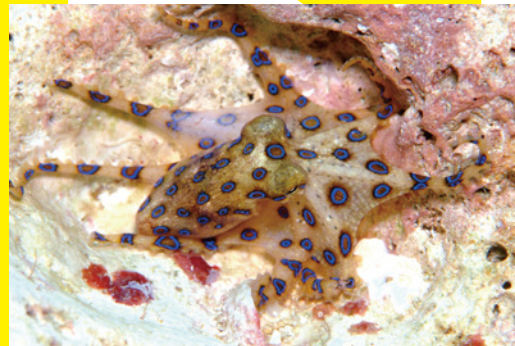
ヨコヅナサンガメ



トラフグ

様々な毒のある魚

フグは積極的にフグ毒を食べる!



オオマルモンダコ

ヒョウモンダコの仲間。危険が迫ると斑紋を濃くして外敵に警告する。

防御姿勢をとるアカハライモリ

腹面の警告色を見せけている。



有毒爬虫類

超強い! 自分よりも大きな獲物も捕食するコモドオオトカゲ。

毒の原料となる鉱物・硫砒鉄鉱

主成分である砒素は、代表的な鉱物由来の毒。かつては暗殺に用いられたことも...!?



毒きのこ、いろいろ

痙攣・腹痛・下痢、幻覚症状、細胞破壊...様々な中毒症状を引き起こす。左からドクツルタケ、カエンタケ、オオウライタケ。



アスペルギルス・フラブス

カビはマイコトキシンとよばれる300種類以上の様々な毒を生産する。

